



神戸常盤大学

# キャンパスレポート

2020.12  
No.62

## 建学の精神

広く学術の基礎となる知識及び技能を授けるとともに、深く専門の学問及び技術を研究・教授して、知的、道徳的に優れた技術者を育成し、また成果を社会に還元することにより、国家及び地域社会の発展に寄与すること。

[www.kobe-tokiwa.ac.jp/univ/](http://www.kobe-tokiwa.ac.jp/univ/)

## コロナ禍と遠隔授業



学長 濱田 道夫

秋も深まり、本格的な冬支度の時期がやってきました。2020年も終わりに近づき、この一年の出来事を振り返る機会も増えてくることでしょう。今年は何といても新型コロナウイルスの感染拡大に悩まされた年でした。このところまた感染拡大が急速化し、第3波の到来が危ぶまれています、この先どうなることでしょうか。1週間先も予想できない、文字通り不確実な時代を生きることを強いられているようです。

グローバル化に原因を求めることは簡単ですが、実際、世界のいたるところで、また社会のあらゆる分野でウイルス感染の影響を強く受けています。もちろん大学も例外ではありません。わがキャンパスもこれまでにさまざまな試練を経験しました。ウイズ・コロナとはいいますが、大学は新たな取り組みにそれなりに習熟してきたとはいえ、まだ手探り感から抜けきれていないというのが実情ではないでしょうか。

しかし、それでも次のステップのことも考えなければなりません。コロナ後を見据えた大学の課題ということですが、その一つが、本学にもっともふさわしい授業の形態とはどのようなものかです。コロナ禍のなかでいわば緊急避難的に遠隔授業を取り入れたのですが、いまではそのメリットとデメリットが見えてきたように思えます。学生は収録された授業内容を都合のいい時間帯に開き、必要ならば何度も振り返ることが可能です。それだけに教員には周到的な授業の準備が求められます。IT機器が苦手だった教員も、だいぶ慣れ

てきたようです。もちろんそうしたなか、教員と学生が自由に意見交換できるよう工夫する必要があります。そうでなければ、遠隔授業はただの知識伝達的手段になってしまいます。またいまのところ、動画配信は一部にとどまっていますが、条件が整いしだい拡大していく予定です。いずれにせよ、遠隔授業のメリットを活かして、それを対面授業とどう組み合わせることができるのかが課題です。

本学は医療・教育系の教育機関であり、学生諸君にとっては実習で学び体験したことがとりわけ重要になってきます。実際、本学では緊急事態宣言の解除を受けて6月上旬から授業が始まったわけですが、実習やゼミ、また少人数の講義クラスは対面で、講義中心の大人数の授業はオンラインで実施してきました。全体の割合で見ると、対面7割、遠隔3割といったところでしょうか。実習やゼミでなくとも、対面授業は多くの方が望むところだと思います。教育とは本来、教師と学生の、また学生どうしの人間的な交流のなかで営まれるものです。

大学はいまコロナ以後に向けて模索中です。時代は大きく変わり、たとえば表現方法が舞台演劇から映画・テレビへと移ったように、また生活様式がアナログからデジタルへと移行したように、教育のあり方も変化しないわけにはいきません。しかし、本来の人間的な要素は何とか伸ばしていきたいものです。

## 新設学科の楽しみ

保健科学部 診療放射線学科 学科長 松田 正文



今春、本学に新設学科として診療放射線学科が誕生してから早くも半年を超える月日経ちました。この間、誕生間もない学科であるが故に、戸惑いを覚えることもありましたが、学内・学外からいただいた多くのご支援によって、ここまで来ることができました。感謝申し上げますとともに、厚くお礼申し上げます。

振り返ってみますと診療放射線学科は、ヒトに喩えるなら母親の胎内にあるときから新型コロナウイルスとともにあったという思いがします。近頃「ウィズ・コロナ」という言葉をよく耳にしますが、診療放射線学科は、文字通り誕生前から「ウィズ・コロナ」でした。本学でははじめからこうした考えの下に教学体制の維持・整備に向けた努力が行われてきました。これは、大学の使命を考えれば当然といえば当然のことですが、学生諸君の協力を得ながら、教員・職員が努力した結果であると思っています。

しかし、本年度の当初は全く授業を行うことができず、授業

が開始されても暫くは遠隔授業のみでした。その後、対面授業も開始されましたが、いまなお、遠隔授業と対面授業とが混在している状況です。遠隔授業と対面授業と、これらの評価はさまざまですが、少なくとも、学生諸君の期待に充分には応えられなかったことは反省しています。

診療放射線学科を巡る状況に、明るい出来事もあります。その一つは8月に新棟(8号館)が完成したことです。ここには診療放射線学科が必要とするさまざまな検査機器が設置されています。例えば、X線撮影装置、CT撮影装置です。診療放射線学科の学生はほとんどの授業をこの8号館で受けます。もう一つは、学生諸君の顔に一期生らしさが出てきたことです。「診療放射線学科の歴史を作っていく」という気概のようなものが感じられます。新型コロナウイルス感染症が終息せず、コロナ禍はまだまだ続くと言われる中、柔軟な発想のできる診療放射線技師が育ってくれることを楽しみにしています。



外観(南面)



1階 ホール



1階 CT室





8号館アプローチより(東面)



1階 X線室E(マンモグラフィー)



2階 コンピューター実習室



2階 エントランスホール



4階 大講義室

# 実習体験記

## 看護活動基礎実習を終えて



看護学科 1年  
船曳 ひかる

実習では「患者の視点」と「看護師の視点」から看護活動を観察し、看護の対象、役割・機能について自身の考えを深めました。患者の視点で看護を見たことによって、患者と看護師の捉え方の違いを感じることができました。また、入院生活の中で患者が失ってしまっているものは何かを考え、できる限り日常生活に近い状態にすることが看護活動には大切であると考えきっかけにもなりました。看護師の視点で見た看護からは、看護師が行う行動はすべて、患者の安全や患者自身に「生きたい」という思いを持ってもらうことに繋がっているのだと感じ、看護の対象としての患者の捉え方を改めて考えることができました。今回の実習は、知識・技術があまり身につけていない新鮮な気持ちで看護を見たからこそ感じられたものがあつたと思います。そのため、今回見たこと・感じたことは私自身の糧として心に刻み、今後の学びや成長に生かしていきたいと思います。

## 基礎看護学実習を終えて



看護学科 2年  
山下 大翔

私は、基礎看護学実習で一人の患者さんを受け持ちました。患者さんの状態をアセスメントすると、清潔のニードが満たされていないことに気が付きました。そこで、患者さんに清拭を勧めると、患者さんは「寒いから今日はいい」と返答されました。私は、今、患者さんが求めているのは身体が温まることだと考えました。そこで、足浴を提案すると、すぐに同意されました。足浴後、冷たかった四肢は温かくなり、表情も明るく変化し、「温かくなった。気持ちいい。身体も拭く」と話されました。この時、足浴の援助が患者さんの足を温めただけではなく身体全体を温め、心身のリラックス効果に繋がり、そして、安楽な状態へと導き、「患者さん自身も持っている治そうとする力(自然治癒力)」を引き出すことに繋がったのだと思います。これが看護の力だと、私は実感しました。私は、あらゆる場面で患者さんが何を感じ、考えられているか、その人の背景までも視野に入れて患者さんの気持ちに寄り添える看護師になりたいと思います。

## 保育実習Ⅱを終えて



こども教育学科 4年  
藤原 志乃

実習期間中の敬老の日に向けて、おじいちゃんおばあちゃんと遊べるけん玉づくりの設定保育を2回にわたって実施しました。素材選びや製作過程で、予想もしなかった子どもの自由な発想が発揮され、子どものもつ創造力と自己発信(発進)力の豊かさを目の当たりにしました。「できた!」という子どもの笑顔と共に、素材、音や色、手触りなど一人ひとり違った、個性あふれるけん玉が完成しました。完成後、園に隣接する介護施設のデイサービスの方に「けん玉を見てもらいたい!」という子どもからの声が上がりました。翌日、当初の予定にはなかった「けん玉を披露する活動」を実習クラスの先生が取り入れて下さいました。笑顔で見守ってくださる高齢者の方々を前にのびのびと披露することができ、子どもたちの達成感が伝わってきました。子どもの気づきや学びのきっかけになるには、子どもの声をよく聞いて活動を展開していく事が大切だと実感しました。実習での経験を活かし、子どもの声を大切に保育者になれるよう頑張ります。

## 保育実習Ⅲを終えて



こども教育学科 4年  
波多 彩花

不安と緊張に包まれてはじまった児童養護施設の実習では、貴重な体験をさせていただきました。児童養護施設は、児童にとって安心安全に暮らすための家であり、自立していく場という目的があります。実習生といえども、日々の生活を通して子どもとの信頼関係を築き、健全な心と体の発達が保障できるよう支援を行う必要があります。具体的には、生活支援及び自立支援、関係機関と連携した保護者支援や家族再統合、退所児への支援、里親支援等について学ぶ事ができました。その事を通して、子どもの現在、そして未来を支援していく事の尊さを感じました。また、子どもとの関わりに欠かせない人と物の理解や意図について、職員の皆さんに質問をしながら実習に取り組みました。わずか10日間の実習ではありましたが、相手を知り、それぞれの個性を尊重することを念頭におき、意図のある関わりができるような保育者になりたいと思いました。今後、福祉に携わる職に就くにあたり、本実習で学んだ知識、実践で習得した支援技術等を活かして努めてまいります。

## 臨地実習を終えて



口腔保健学科 3年  
織部 有彩

臨地実習が始まったばかりの頃は、教科書で勉強していても実際に臨床の場に出ると分からないことばかりでした。しかし、実習先の歯科衛生士さんがひとつひとつ丁寧に教えてくださったおかげで、毎日たくさんの事を理解していくことができました。理解していくうちに患者さんのために行動できることが楽しく感じられるようになりました。また、授業だけでは学ぶことのできない患者さんへの配慮の必要性や声かけなどの接し方を学ぶこともできました。3年次の臨地実習は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止になってしまいました。しかし、外部講師の方に実際の医療現場の様子を動画で見せていただいたり、他職種の方々の講義を受けることで、幅広くそして深く学ぶことができました。これらの実習で学んだことを色々な場面で活かしていき、卒業後は患者さんのために行動できる歯科衛生士を目標に、日々向上していけるよう頑張りたいと思います。



## 前期を振り返って



医療検査学科 4年  
竹内 杏

4月7日、細胞検査士養成課程開講式が行われる最中、「緊急事態宣言」が発令されました。900時間の学修予定がどうなることかと思いきや、翌日から自宅で録画済オンデマンド映像を見る授業に変わりました。自由に停止や見返しができ、メモが取りやすく集中できたと思います。またクラウドサーバーを用いた細胞像確認テストがあり、自己学修の進捗度がわかりました。自分の好きなタイミングで行える点、オンラインは便利だと思いました。しかし、自分で計画を立てる必要があり大変でした。答え合わせは対面の方が質問しやすかったです。通学時間が無くなることや自分の都合に合わせて授業を受けるのはメリットだと思いましたが、一方、生活面を含めた管理をしなければならないデメリットがありました。つくづく「普通の生活」の有り難さが身にしみました。コロナ禍は私の自己管理能力を試しているのだと思います。引き続き頑張っって乗り切りたいと思います。



診療放射線学科 1年  
井上 爽

実際に大学生活を始めて、高校生までの生活と大きく環境が変わりました。地元を離れ、慣れない環境での一人暮らしに戸惑いの連続で、勉強と自分の生活を両立させるにはどうしたら良いかということ日々考えながら生活していました。授業は遠隔授業から始まり、個人で学修を進めていく難しさを感じました。しかし、自分の学修スピードに合わせて進められるため、苦手な教科は繰り返し音声を聴いたり、スライドを見ることで復習に取り組むことができました。対面授業が始まってからは、学校の友達と会うことができ、授業中には仲間との話し合いの時間などを通して学修を深めることができました。今後の目標は、どの教科の学修も自分なりにでも深く理解できるようにし、一つでも多くの知識を自分のものにしていくことです。後期は、前期よりも専門の教科数が増え、国家試験に直結するような内容も学んでいくこととなります。将来を見据えた学修姿勢を確立していきたいと考えています。また、後期からは様々な活動が再開され、私は自治会活動に参加することになりました。裏方として、常盤の活発な活動を支えていきたいです。



看護学科通信制課程 1年  
笠谷 由香

私は、どうしても看護師になりたいという思いで入学しました。しかし、新型コロナウイルス感染予防のため、入学前説明会等が中止となりました。そのため、レポートの進め方や、書き方などに戸惑いました。分からないことは、質問一覧から質問することもできたのですが、顔が見えない分、文章で伝えることが難しく、質問することもできませんでした。また、緊急事態宣言や外出自粛要請で、6月中旬までは子どもたちが家にいる状態で、レポートもほとんど書けず、提出もできませんでした。しかし延期されていたスクーリングが6月末から始まり、そこからやっと私自身、学生になったと実感することができ、課題に取り組んでいくことができました。そして、スクーリング中に一緒に学んでいける仲間もでき、勉強する意欲も増しました。これから1年半、実習などありますが、仲間とともに切磋琢磨しながら頑張っていきたいと思います。

## KOBE TOKIWA オープンキャンパス2020

Web個別相談会を含む計9回の予約制・登録制オープンキャンパスを無事実施することができました。コロナ禍の中で、3密を避け、ソーシャルディスタンスを保ちながら、教職員、学生が一丸となって実施し、来場者の皆さまにもしっかり神戸常盤大学を感じていただきました。



事前予約・登録制で実施しました



新校舎8号館での体験学習



新校舎8号館での総合説明会



正門・西門で受付を行いました



文章表現講座



体験学習



体験学習



キャンパスツアー

## 第9回神戸常盤学術フォーラムをオンラインで開催しました

KTU研究開発推進センター センター長  
看護学科 教授 **中田 康夫**



2020年度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のため、国内外の学術会議・集会在中止もしくはオンライン開催へと変更されました。このような状況を踏まえ、本年度の「第9回神戸常盤学術フォーラム」の開催も中止も含め検討しました。しかし、「研究」「教育」「社会貢献」という大学の3つの使命のなかの1つであることから、「3密」を避ける方法で開催できるように、学長にも相談しながら検討を重ねました。その結果、学生支援のために本学が既に導入・運用している「manaba®」(クラウド型教育支援サービス)を活用して、学内限定ではありますが9月4日10時～11日の15時までの期間、オンライン開催をすることができました。

本学術フォーラムにとって初めてのオンライン開催ではありませんが、幸い関係者の方々の多大なるご協力により、全14演題を発表していただくことができました。なかでも、学部・学科横断的学際研究1演題は、本学の今後の方向性を示すものといえます。また、オンライン開催だからこそあえて、初心に帰る意味も含めて、大学初代学長である上田國寛先生の「研究のすすめ」も閲覧していただけるようにしました。

参加者・閲覧者からはもちろん厳しいご意見・ご指摘もありましたが、肯定的な意見も多数頂戴したことから、オンライン開催ながらコロナ禍においてもフォーラムを継続開催できたことに安堵しております。

大学は今まさに冬の時代です。だからこそ「研究をしない大学というのはあり得ない」という上田前学長のお言葉を再確認し、本センターとしましてもこれまでもまして、その役割を遂行させていただきたいと考えております。

### 2020年度【第9回神戸常盤学術フォーラム】研究発表テーマ一覧

所属	発表テーマ	所属	発表テーマ
学際研究	地域における共生社会の実現に向けた総合的研究 ー長田区・兵庫区を中心にー	看護学科	療養支援実習IIにおけるルーブリック評価基準の妥当性の検討
医療検査学科	唾液中sIgAと栄養状態、免疫について ーsIgA濃度の信頼性についてー	こども教育学科	次世代型生涯学習プログラムの構築と実装に向けた基礎研究
医療検査学科	閉経モデルマウス腸管粘膜における細胞増殖・細胞老化関連蛋白の発現に関する検討	口腔保健学科	高齢者の口腔機能と足趾把持力との関連性について ー健康寿命の延伸に向けてー
医療検査学科	スマートフォンが及ぼす身体への影響 ー血管内皮機能を中心にー	口腔保健学科	顎顔面形態の差が心理的背景に及ぼす影響に関する検証
医療検査学科	神戸常盤大学卒業生を中心としたリカレント教育プログラムの開発	口腔保健学科	長期に及ぶタバコ煙曝露が歯周組織構成細胞に及ぼす影響
看護学科	心理支援場面において「巻き込まれる」ことの是非	口腔保健学科	終末期がん患者の在宅療養を支える医療職に対する口腔ケア教育プログラムの開発
看護学科	看護学実習において学生の学習意欲が高まった教員の間主観的な関わり ～学生の視点から～	口腔保健学科	青年期における母親との信頼関係が幸福感に与える影響について(大学生の学生支援のための研究)

## SD活動報告：遠隔授業の充実と質保証を図るための研修会を開催しました

SD委員会委員長  
看護学科 教授 **畑 吉節末**



コロナ禍は私たちの社会生活に様々な影響をもたらしています。教育も例外ではありません。こうした影響に適切に対応するため、大学をあげて教職員の能力開発に取り組む「スタッフ・デベロップメント活動(SD活動)」の柱の一つに位置づけ、本年9月に「遠隔授業の質向上」をテーマにしたオンデマンド形式の研修会を開催しました。研修会では、普段、学生の皆さんが遠隔授業で使っている「manaba®」(クラウド型教育支援サービス)を用いました。

研修会には8割を超える教職員が参加し、遠隔授業特命チームの代表である教育学部長の大森先生から前期の取組の総括と今後の展望についてご報告をいただきました。さらに教職員が共有すべき遠隔授業の標準形を示していただきました。

看護学科の生島先生からは「manaba®」の機能を効果的に活用した授業展開方法についてご紹介いただきました。研修会を通して参加者は遠隔授業のあり方を確認し、前期の遠隔授業を振り返りながら、後期の授業を考える貴重な機会となりました。研修会後のアンケートでも積極的な意見が多く寄せられました。

感染の拡大が続き、先行きが見通しづらい現状ですが、学生の皆さんと教職員の心が離れてしまわぬように心がけながら、教育の質保証を図っていきます。



学科や教職員の垣根を超えた従来の研修会の様子





## ときわ幼稚園通信



ときわ幼稚園には未就園児クラス(ちゅうりっぷ組)があり、週3回登園しています。幼稚園に入園する前に、少しずつ集団生活を経験し、幼稚園に慣れ、楽しく通えるようになって欲しいと考える保護者も多く、希望者が増えています。

就園前の幼い子ども達にとって、初めての集団生活では、保護者と離れる事に不安を感じる子どももありますが、入会して数ヶ月経つと、自分の好きな遊びを見つけ、笑顔で過ごせるようになっていきます。

ちゅうりっぷ組では、様々な遊びや経験をする中で、“生活に必要な身の回りのことを自分でやってみようとする”という、基本的な生活の自立に繋がるような関わりも大切にしています。自分でできるようになった時の「自分でできたよ!」「先生見てね。」と喜びを伝える表情はいきいきとしています。

「幼稚園って楽しい!」「次は何して遊ぼうかな?」と、子ども達が好きな遊びから、興味関心が広がるような関わりをこれからも大切にしていきたいと思えます。

ときわ幼稚園 教諭  
後藤 友美



ホットケーキ作ろう!



## コロナ禍でのひととき

オリンピックイヤーの2020年のはずでしたが新型コロナウイルスの影響で延期され、私たちのライフスタイルも大きく変化する年となりました。そんななか、私は学生時代より過ごしてきた神戸を離れ、大阪での新生活となりました。新しい環境で慣れない状況に加え、大阪は新型コロナウイルスの感染者数が多いこともあり、休日もなかなか外出できない日々が続きました。最近少し落ち着いてきたため、先日近くの万博公園に出かけてきました。

万博公園のゲートを抜けると凜とそびえ



万博公園の日本庭園

口腔保健学科 1期 久保 祐美子

立つ太陽の塔に圧倒されました。神戸に住んでいたころより万博公園の太陽の塔を見に行きたいと思っていましたが、なか



凜とそびえ立つ太陽の塔

なか行く機会がなく、やっと見ることができました。公園内はソーシャルディスタンスをとりながら秋の行楽を楽しむ家族連れが多く賑わいをみせており、心安らぐ休日となりました。これからインフルエンザも流行する季節となりますが、1日でも早く新型コロナウイルスのことを気にせず楽しめる日が来ることを心から願います。



## 「ときワン」ゆるキャラグランプリ



ときワン(本学屋上にて)

先日開催された「ゆるキャラグランプリ2020」に、本学の学生によって生み出されたマスコットキャラクターである「ときワン」が出場し、およそ1,000組のエントリーがある中、ご当地キャラクターとして69位(兵庫県内では2位)という結果を収めました。(投票期間7月1日~9月25日、決選投票10月3、4日)

本イベントは2011年より開催され、過去には「くまモン」などの有名なキャラクターがグランプリを獲得しました。10回目の開催となる今年は最終回となり、「ときワン」は満を持しての参加となりました。投票開始直後こそ票数が伸び悩み苦戦しましたが、学内外にてPR活動を行い、多くの方々の協力に支えられ最後まで順位を伸ばし続けることができました。応援してくださった皆様、誠にありがとうございました。今後の「ときワン」の更なる活躍にご期待ください。



事務局入口のときワンぬいぐるみ



ゆるキャラグランプリ2020投票の御礼

## 芸術文化論開講

診療放射線学科 特任教授 谷口 英明



コロナ禍で前期開講できなかった芸術文化論は11月に移行し、無事開講することができました。

様々な分野の第一線で活躍されている方々をオムニバス形式でお招きし、貴重な話を聴いたり、毎年恒例の明泉寺・富士荘貴住職による「坐禅」体験など、日本の伝統文化を知り、教養を身につける基盤教育の科目です。

今期は西洋占星術師キアラ・クラリス氏や日刊スポーツ編集委員高原寿夫氏らユニークな講師が公開講座で興味深い講義をして下さいました。

第4回は野球評論家・福本豊氏をお招きし、「我が野球人生」と題し、公開講座として私とトークショー形式で行いました。身長168cmの小柄な福本氏が世界の盗塁王と呼ばれる偉大な選手に成長できたのは何故か。阪急ブレーブス(現オリックス)に入団

当時、先輩から「そんな体でよう入ってきたな、スカウト誰や、こんなん獲ったらかわいそうや」とさんざんな言われかたでした。そこからは、尊敬する西本監督の教え通りの猛練習で見違えるように打撃が上達。また投手のクセを徹底的に研究し、誰も破れない盗塁の大記録を樹立したのです。盗塁の極意は? 「塁に出ることです」明快な答えの理由は、打撃技術がないと出塁できない、塁に出ないと走れないからです。大量得点差の試合では走らないなど、福本流の美学もたっぷり聴くことができました。

一方、盗塁ばかりがクローズアップされますが、福本氏が最も胸を張れるのは、「小さな体で208本の本塁打を打つことができた」ということでした。やればできる! そんな勇気をもらった貴重な時間でした。



福本豊氏



講義の様子



現役時代を振り返って

## 第54回 常盤祭を終えて

10月24日「Tokiwacci Music Festival〜コロナに負けない常盤祭〜」をテーマに第54回常盤祭を開催しました。神戸常盤大学・神戸常盤大学短期大学部の学生は、日々勉学に励みつつ、充実したキャンパスライフを楽しんでいます。今年度の常盤祭ではコロナ感染症防止対策として、検温やアルコール除菌等の徹底を心がけました。

例年よりも規模を縮小して環境を整え、思い出に残る最高の大学祭を目指し、アーティストグループのwacciさんをお招きしました。常盤祭スタッフ一同は、先輩方の意思を継ぎ、各々の力を発揮すべく何度も打ち合わせを重ねました。安心して楽しめる時間と空間を共有したいというスタッフの思いは届いたでしょうか? 第54回常盤祭にお越しいただいた皆様、ご支援・ご協力を賜りました関係者の皆様に心より感謝し、厚く御礼を申し上げます。次回の第55回常盤祭もご期待ください。ありがとうございます。

常盤祭実行委員長 こども教育学科 2年 小河 輝



財務情報につきましては、本学園のホームページをご覧ください。

発行・編集 神戸常盤大学 広報委員会 〒653-0838 神戸市長田区大谷町2-6-2 ☎(078)611-1821(代)